

## 第2学年1組 特別活動指導案

展開場所 体育館

1 題材名 文部科学省選定「安全におうちへ帰ろう～じぶんをまもる4つのアイテム～」(日本こどもの安全教育総合研究所)を聞いて、危険から身を守るための行動力を身に付けよう。

### 2 はじめに

千葉県教育研究会(市教研)安全教育部会では、児童生徒の安全を守るために、安全の三領域である防災、防犯、交通安全における知識や考え方を学んだり、授業検証したりする活動をしている。研修で得られたことは各学校の安全教育や訓練などに生かしてほしい願いから、毎年最新のものを様々な形で千葉市へと発信している。それまでマンネリ化した各種訓練であったり、授業を含めた安全教育が進められていない状況が続いたりしたが、数年前から安全主任研修会を通して、安全教育の考え方や授業実践を紹介してきたことで、ここ2、3年でやっと数校の学校での授業実践や避難訓練の見直しなどの声が上がってきた。安全における意識の高まりを感じることができるようになってきている。

近年、市教研安全教育部会では、「担任の負担が少ない授業」を提案している。その理由を後述しているが、たくさんの先生方がこの指導案を目にし、授業実践することを願っている。本授業においても、この考えが土台のもと授業計画を行っている。どんなに多忙な教育現場であろうと、「安全教育を受けた児童生徒」と「受けていない児童生徒」では、いざというときの行動力が違うことは東日本大震災の教訓から分かっていることである。

今年度は、防犯という面での授業展開であるが、過去の授業展開もホームページで閲覧いただき、指導に役立てていただければ幸いである。

### 3 題材について

#### (1) 題材の目的

現在千葉市では、防犯教育として外部機関を要請して行う「防犯教室」、児童集会などで行う安全指導、朝や帰りを行う学級活動がメインであり、授業で行うことはほとんどない。英語、特別の活動道徳などの教科が新たに教育カリキュラムに加わり、教員の多忙化は各メディアで騒がれていながらも沈着することはない。そのような背景があるせいか、通知表で評価をしない安全指導を中心とした教育はどうしてもないがしろにされがちなものとなっているように思える。安全指導を繰り返し行わないことが原因となり、犯罪に巻き込まれては元も子もない。

安全指導の授業を行う際、問題点は授業の構想である。年間35時間という窮屈な学級活動の時間で指導することになるため、間延びしてしまうような授業はできない。また、そうしないために1時間をより効果的な授業にしようと考えると準備にかなりの労力がかかってしまう。大阪教育大学附属池田小学校のように教科に「安全」が組み込まれていれば教員の考え方は変わってくるだろうが、現時点ではそうではない。そのため、今回は「1つのアイテムがあれば防犯教育ができる」ということをテーマとして、教員負担が少ないながらも効果的な授業ができることを検証していこうと考えている。

安全教育は、児童生徒を教育するにあたっての基盤である。児童の安全な生活を確保してこそ教育で

きる状態が成り立つ。多忙な現場でも、このような教材を使えばすぐに授業することができることを実践して検証し、市内はもちろん市外にも広めていきたい。

## (2) 題材の内容

使用するものは、紙芝居教材である。内容は児童を犯罪から守るための紙芝居であり、学校や塾の帰り道などでもしも危険が迫ってきたらどのように行動すべきかを学ぶことができ、さらに、地域の人々が見守ってくれるという安心感を伝えられる作品である。描かれている「4つのアイテム」と呼ばれる知識は、低学年でも行動できる内容となっている。授業では、これらのアイテムを実際に行動（体験）させるようにし、危険を回避する力を養わせたい。百聞は一見に如かずを信じ、体験させることで児童に危機回避能力を身に付けさせようと思う。

紙芝居には、下校中に起こった不審者による声掛けから、ブザーや大声を出す判断、ランドセルを捨ててまでしても逃げるといった姿勢など危険から守る行動が描かれていて、実際に練習することは、学校ではないだろうと思われるものである。また最後には、地域の方に児童は守られていると感じられ、低学年の児童にとっては臨場感あふれる構成になっている。

感覚としては、その「防犯教室」を外部機関に委託せず、教師自身でできるものと考えてほしい。「防犯教室」はたいがい小学1年生に向けて依頼することになるが、それ以降6年生までは、教師が意識して指導しなければ、学習されることはない。

以下に内容を示す。

宮田美恵子監修による「安全におうちへ帰ろう～じぶんをまもる4つのアイテム～」の内容



<紙芝居は全部で14頁>

ゆっくり読んで6～8分くらいかかる。朝の学習などでも活用することができる。

絵の雰囲気が柔らかく児童に馴染みやすいものと感じる。物語は下校中のシーンから始まる。下校中に巻き起こる犯罪に対応する力を学ぶことができる。

☆裏には紙芝居初心者でも大丈夫のように、抜き方までも細かく指示されている。



<簡単な流れ>

本校は、マンションなどの集合住宅に住んでいる児童が多いため、下校時に一人になってしまうようなことが少ない。紙芝居の1枚には左のような、一人になる場面があり、もしもの状況を考えられる。その後犯罪に巻き込まれそうになり、4つのアイテムを使って危険から助かる流れとなっている。



<じぶんを守る4つのアイテム>

- ・自分のふうせん（相手との距離の取り方）
- ・ブザーを鳴らす
- ・大声を出す
- ・ノー・ランドセル（ランドセルを置いて身軽になって逃げる）

本当に犯罪に巻き込まれたとき実際にできるものは少ないだろう。紙芝居を聞いただけでは、身に付かないと思うので、行動（訓練）させることが大切である。

<安全教育で欠かせない話>

最後に、地域の人が自分のことを守ってくれるという安心感を味わえる。ソーシャルサポートを高める話につながるができる。自分は、認められている、自分は愛されているなどの話をする。

先生からのソーシャルサポート認知は低いが、効果がないわけではないので、必ず授業時間に組み込むことが必要であると考えている。

※ソーシャルサポート…家族や友人や隣人などのように、個人の周囲に存在する人々から得られる有形・無形の支援や援助のこと。



#### 4 児童の実態（2年1組 男子16名 女子14名 計30名）

平成30年9月4日現在

[知識面]

○ 不審者とはどんな人ですか。（自由回答）

知らない人、怪しい人、ついてくる人、じっと見つめてくる人、顔が怖い人、やたら優しい人  
周りをきょろきょろしている人、サングラス・マスクを着けている人、人から見えない場所にいる人  
おかしを買ってくれる人 など

低学年の児童は、気をつけるべき人（不審者）の感覚をわかっているように思える。これは、幼少期から学校だけでなく、家庭を含め様々な場所から得られた情報により培われていると考える。ただ、いつも思うのはパーフェクトではない。このように質問して、黒板に書き上げていく中で、他の児童の意見や先生の話聞いて児童が驚く一面が一つはある。これは、大人にとっても同様であると思う。その理由は、めまぐるしく変化している現代にとって、情報が常に更新しているからであり、巷に言う「想定外」なものも多くあるからである。最新の情報を伝え、今まで起きた事故や事件を風化させることなく、指導していくことが大切であるとわかる。

○ こども110番の家とはなんですか。（自由回答）

子どもを助ける場所、警察、警察に通報してくれる人、隠れられる場所

こども110番の場所は、知らない児童が多い。これは、大人も把握していることが少ない。犯罪に

巻き込まれそうになったときに保護に協力してくれる家であるが、事件や事故があったときに警察や学校などに連絡してくれるので、これを機に伝えていこうと思う。

○ 自分の通学路で子ども110番の家を何か所知っていますか。

- 0か所 10人
- 1か所 10人
- 2か所 8人
- 3か所以上 2人

アンケートをして良かったと思う。30人中1/3が子ども110番の家を知らないということが現状である。それだけ小仲台の地域は犯罪が起きにくいのかもかもしれない。ただし、知らなくてよいという感覚は正しくはない。後で後悔をする前にと考えたときに、授業計画に取り入れようと考えた。

[思考力・判断力]

・不審者に声をかけられたらどうしますか。(自由回答) ※多数…20人以上

助けを呼ぶ…多数                      無視する…多数                      大声を出す…多数

逃げる

助けを呼ぶために逃げる

防犯ブザーを吹く

追いかけてきたらブザーを鳴らす

大きな声を出して助けを呼んでダッシュする。

逃げながら防犯ブザーを鳴らす

学校で指導する「(きょうは) いかのおすし」が浸透していることや、テレビなどの各メディアから入る情報などから全員の児童がどのようにすべきかはわかっている様子である。ただし、実際行動できるかはわからない。防犯教室など外部の機関を要請して指導することはあるが、いざというときに正しく動けるのは、多くの訓練をして実際に行動することや、クロスロードの手法のように危機が迫る状況を設定してジレンマを抱かせるような問題を考えるなどの学習で身に付けることだと考える。

本校の生活圏である千葉市稲毛区周辺では、不審者の情報は多くはなく、安全に守られている恵まれた地域である。そのためか、声をかけられたとき、写真を撮られたとき、その後自分がどうなるかを考えるためには、様々な訓練や、そのような状況を考える場を提供する必要がある。いざという場面に遭遇したときの危機回避能力を高めるためには、このような安心な地域でも、実はたくさんの怖さがあるということを知り、それらに行動の仕方があるということなどを学ばせたいと考えている。

5 題材の構成：1時間扱い（生活科1時間：町探検、学区探検に含ませる）

本時までの計画は、児童の実態に基づいて考えている。ただし、前述したとおり、担任への負担感がない題材構成にした。

時数	学習内容
生活科 1	学区探検で、子ども110番を探す。 学区探検の際に、子ども110番を見つけて場所を把握する。
本時 学級活動(特別活動)1	「安全におうちへ帰ろう」を聞いて、自分をまもる4つのアイテムをみにつけよう。 紙芝居に描かれている犯罪から身を守る行動を実践し、危機回避能力を高める。

※生活科の単元で組めなかった場合は、朝の会の10～15分で、一度子ども110番の家、店などの場所とその役割を確認していくと良い。

※ソーシャルサポートを高める話

＜自己肯定感を高める＞

紙芝居を読んで、紙芝居に記された危機回避の行動をとらせるという授業であるが、安全教育の学習には必ずソーシャルサポートを高める話をするのが大切である。安全に生きようとする心情を育てるためには、自分が好きということ（自己肯定感）と、自分は認められ愛されているという気持ちを高めるのが大切だと言われている。よって、児童には教師の口から躊躇うことなく、「あなたたちのことが大切だから、身を守る力を養いたい。」ということ伝えることは欠かせない。構成的グループエンカウンターの手法と同様、児童自身を認めていくことが自己肯定感を高めることは、多くの教師が実感していると思われる。だからこそ、安全教育では欠かせないものとして考え、授業をする際は、防犯であろうが、防災、交通安全の教育にもこの考えを取り入れてほしい。

池田小学校の児童は、現在23歳の成人となっている。被害を目の当たりにした被害者が現在どのような気持ちで生活しているのか池田小学校元校長藤田大輔先生の講演で聞いたことがある。簡単に言えば「自分が死ねばよかった。」というような考えを持って生活をしている人がいるとのことだ。自分自身が世の中に必要でないと思ったら、生きていることが辛くなってしまふ。この事件に関しては不運と片付けてしまふはいつか風化して私たちの記憶から消え去ってしまうだろう。ただこれを教訓として生かすのであれば、このような事件において当該者となっても生きていこうとする力を養うことが必要であり、それを指導できる人は教育者であり、指導に取り入れていかなければならない。

ソーシャルサポートを高めることを安全教育で養っていくこと理由は、ここにある。

## 6 本時の目標

紙芝居を聞いて不審者から身を守る知識と行動力を養う。【危機回避能力】

## 7 本時の指導

過程 (分)	学習内容と児童の活動	指導上の留意点 (◎評価)	教材・ 教具等
1	○めあてを知る。  「安全におうちへ帰ろう」を聞いて、じぶんをまもる4つのアイテムをみにつけよう。		紙芝居を置くための机
8	○紙芝居を聞く。	○内容が正しくつかめるように読み手側に書かれている指示を守り、ゆっくり丁寧に読む。児童の反応に受け答え、楽しみながら聞けるようにする。	安全におうちへ帰ろう (紙芝居)
1	○じぶんをまもる4つのアイテムを確認する。	○紙芝居の内容を理解しているかを確認するため、児童に4つのアイテムを挙げさせ、紙芝居の14ページを掲示する。	

<p>2 5</p>	<p>○じぶんをまもる4つのアイテムを実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のふうせん</li> <li>・防犯ブザー</li> <li>・口のブザー</li> </ul> <p>「たすけてー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー・ランドセル</li> </ul> <p>(ランドセルをさっと降ろして、不審者役の教師から逃げる。)</p>	<p>○両手を広げさせて間隔をとり、周りの児童に当たらないように指示する。</p> <p>○危機感を持たせるために、5人ずつ体験させる。</p> <p>○ランドセルの降ろし方を見せ、安全な降ろし方を理解させる。</p> <p>○児童が転ぶことを想定し、気を付けることを話す。</p> <p>○時間があれば、ランドセルを背負っている場合と、背負っていない場合の違いを確認させノー・ランドセルの良さを確認させる。</p>	<p>マット (ランドセルの傷の防止)</p>
<p>5</p>	<p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを記入し、意見を交換する。</li> </ul>	<p>○児童が転ぶことを想定し、気を付けることを話す。</p> <p>○時間があれば、ランドセルを背負っている場合と、背負っていない場合の違いを確認させノー・ランドセルの良さを確認させる。</p>	
<p>5</p>	<p>○ソーシャルサポートが高まる話を聞く。</p> <p>例</p> <p>T: あなたたちは、毎日ご飯を食べていますか。</p> <p>S: 食べています。</p> <p>T: だれが作っていますか。</p> <p>S: おうちの方です。</p> <p>T: なんで作ってくれるの。</p> <p>S: 元気になってほしいから。おなかいっぱいになってほしいから。</p> <p>T: なんでおなかいっぱいになってほしいのかな。</p> <p>S: . . .</p> <p>T: あなたたちのことを好きだからじゃないの？</p> <p>T: あなたの家族はあなたのことが好きだと思うよ。先生も自分の家族が大好きだもん。</p> <p>(友達などでも同様な質問)</p> <p>T: だから、「自分の命は自分で守る」なんだね。</p>	<p>◎じぶんをまもる4つのアイテムを習得するために真剣に取り組んでいるか。【危機回避能力】</p> <p>○(池田小学校の話を伝え、15年経った被害者の様子を伝える。)</p> <p>「自分は愛されている。」と思わせる話をする。</p> <p>※左はあくまで例。</p> <p>どのような話でもいいが、より「自分のことを愛している」と思わせることが、授業内外で必要であると考えている。</p> <p>※絶対してはいけない話は、「自分の命は自分で守る」という意味が「自分のせいで命を落とす」にならないこと。</p>	

# 安全におうちへ帰ろう

2年 組 ( )

1 かぞくに教えたいアイテムはどれですか。○をつけましょう。ぜんぶ○をつけてもかまいません。

- ( ) じぶんのふうせん
- ( ) ブザーを鳴らす
- ( ) 大声を出す
- ( ) ノー・ランドセル



2 ひとことかんそう